

本学大学院の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【大学院】

本学大学院は、音楽の理論及び応用を教授研究し、深奥をきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、文化の向上に寄与することを人材養成及び教育研究上の目的としています。

この人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、大学4年間で培った専門性・専門実技、多様性、協働する力、社会貢献・実践的態度、論理的思考力・問題解決力を更に研鑽し、揺るがぬ強い信念を持ち、自分自身の目標を達成するための挑戦を続ける意欲、能力のある人材を求めています。

【音楽研究科】

音楽研究科は、器楽専攻、声楽専攻、音楽教育学専攻、作曲専攻の4専攻から構成されています。

器楽専攻には、ソリスト、アンサンブル奏者、オーケストラ奏者または指導者として、各楽器のレッスンをベースに、個々の研究テーマに合わせた自由度の高い、発展的なカリキュラムがあり、演奏実践を重視した高度な専門教育を行っています。各人の研究目的・課題は明確で、演奏・表現能力において必要な素質を備えている人材を求めています。

声楽専攻では、オペラ、オラトリオ、歌曲を大きな柱とし、研究課題の目標、特性を見極め、舞台上で高い表現力を持つよう、きめ細やかな教育を展開しています。舞台に立つための歌唱能力、広い視野と社会的感性を持つ人材を求めています。

音楽教育学専攻では、音楽と教育に関わる深い論理的思考と指導実践力、多様な音楽への理解と表現能力を伸ばすことを目的としたカリキュラムにより、理論と実践の両面から高度な指導を行っています。今後の音楽教育、音楽文化と音楽教育の関与などについて深く探究する心、本質を見失わない見識のある人材を求めています。

作曲専攻は、作曲と音楽・音響デザインの2つの領域があります。作曲では、作品の創作や現代の音楽作品を対象とした作曲法研究を行い、作曲家としての個々の創作活動や研究をサポートできる体制を用意しています。様々な編成での創作に必要な楽器の奏法に関する知識や作曲理論、作品分析に関する能力のある人材を求めています。

また、音楽・音響デザインでは、社会のニーズに合った音楽を創造するための高度なテクニックについて修得し、プロとして活躍出来る作曲家、録音エンジニアを育成するプログラムが整備されています。音楽制作、音響に強い関心を持ち、作曲に関する幅広い識見のある人材を求めています。

入学選抜においては、専門試験、面接において目標を達成するための意欲、能力のある人材かどうか、総合的・多角的に評価します。器楽専攻は各楽器の実技試験と面接、声楽専攻は声楽の実技試験と面接、音楽教育学専攻は筆記試験と口述試験、作曲専攻は作品提出と口述試験と面接を行います。